

信州読書会 ツイキャス読書会

課題図書 スタンダール『赤と黒』

信州読書会では、毎週、ツイキャスをつかった視聴者参加型の読書会を開催しています。

信州読書会のメルマガ登録者は、課題図書の読書感想文を 800 字で書いていただければ、放送中に紹介します。
(募集要項はメルマガでお伝えします)

また作品に関する質問・感想などは、どなた様も、放送中ツイートいただければ、とりあげます

信州読書会 ツイキャス <http://twitcasting.tv/skypebookclub>

『信州読書会』メルマガ登録はこちらから http://bookclub.tokyo/?page_id=714

今後のツイキャス読書会の予定です。 http://bookclub.tokyo/?page_id=2343

課題図書はこちらでお求めください <http://astore.amazon.co.jp/sphinx01-22>

『ツイキャス読書会』音声のバックナンバーです。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLVj9jYKvinCsgP7jtFgzqxea6cgqd7mrf>

(感想文は動画の下の説明欄に PDF へのリンクを張ってあります。)



スタンダール こと マリ＝アンリ・ベール (すこしザキヤマさんに似ている。)

第 41 回のツイキャス読書会の課題図書は、スタンダールの『赤と黒』です。

当読書会で取り上げた作品で、一番難解でした。皆様、お疲れ様でした。

読書感想文を提出して下さった皆さんありがとうございます。

『赤と黒』感想文

この作品を知ったのは、村上春樹さんの世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランドで、主人公が読んでいたので、いつかは読みたい本として覚えていました。

岩波文庫版と、悪評の光文社版を図書館から借りて用意していたのですが、今週は、時間がうまく作れなかったので、1997年にフランスのテレビドラマ版として作られた物を観ましたが、200分でも話の筋がぎりぎり分かる程度でしたので、やはり本じゃないと駄目だなあと思った次第です。

やはり作品背景が難しそうなので、宮澤さんの解説音声や読書会に参加されたみなさんの感想文を読んで、後日、復習したいと思っています。

ざっくりした感想なのですが、ジュリアンってダース・ベイダーの若い頃に似ていて、生まれは低い身分であるが天才だったり、周りに友達も少なく、師匠から禁止された恋愛をして、しかも身分違いのお姫様と恋仲になったりと共通点が多いので、もしかしたらジョージ・ルーカスもスタンダールの影響を多少は受けているのかもしれない。

他にも、ジュリアンはイケメンであり、ナポレオン好きだったりラスコーリニコフにも似ていますよね。助かる命を進んで死のうとしてしまうのは、ムルソー的なものを感じました。

ジュリアンって生まれは貧しいのにお金をあまり必要としていなかったり、出世欲が強いけれど、ストイックに司祭を目指していなかったりと、プライドも高いけれど心の揺らぎも強い主人公だなと思いました。

序盤に登場するかわいいと評判のエリザですが、フランスのテレビ版のエリザは、まったく可愛くなかったので、結婚の申し込みを断ったジュリアンはまったく悪くなく、レナール夫婦がエリザはかわいいかわいいと褒めてるので、見た目に関しては、もう少し本当のことを言ってあげればいいのになあ、と思いました。

(おわり)

イノマンさんのブログです。 『イノマンブログ』 <http://ameblo.jp/inoman-1984/>

『赤と黒』 感想文

このお話の最初の所はすごく難しく感じてなかなか読み進められなくて苦戦しました。

でも、まだ純朴なジュリアンとレナール夫人と出会う場面が初々しくて読んでいて和みました。

ジュリアンは立身出世のためにレナール夫人を利用するような事になってレナール夫人が気の毒な気がしましたが、ジュリアンは父親から愛されてなくて本当に愛するという事を分かっていなかったからだと思います。

レナール夫人も夫のレナール氏に愛されてたのか少し疑問に思いました。

ジュリアンとレナール夫人は、二人とも純粹で、突然大胆な行動をするところがあって似た者同士な気もしました。

ジュリアンは、他の人にも心を奪われながらもレナール夫人は、どうだったとか思い出している場面が何回かあって自分自身でもレナール夫人を愛している事に気付かされたのかなと思いました。

立身出世を果たして、貴族になりお金も沢山持つことが、できるより愛し愛されるという事のほうが大切なんだと感じました。

私が好きな場面は、

『ずっと以前にあのヴェルジーの森を二人で散歩していたとき、わたしはずいぶん幸福になれたものを、あのときは激しい野心が私の心を空想のくにの方へいつもひっぱって行ったのです。わたしの唇のすぐそばにあったこの美しいかわいい二の腕を胸にじっとおしあてることもしないで、未来のことばかり考え、あなたを忘れていた。わたしはあの頃、えらく出世するためにやらねばならぬ無数の闘争を心の中でまじえていたのです…まったくあなたがこの牢屋へ来てくれなかったら、わたしは幸福というものを知らずに死んでしまっただろう』

(おわり)

『赤と黒』 読書会感想文

「これでまあ、おれの物語も終わりになったわけだ。これまでになった働きは、みんなおれ一人にある。おれはこの自尊心のお化けみたいな女に、愛させる事にうまく成功した。あれの父親は娘なくて生きていけず、娘はまたおれなしには生きていけなくなったのだ。」

ジュリアンの悪魔的な高笑いがきこえてきそうです。こんなふうに思っているという描写があるので、ジュリアンはラ・モール氏が断じて許せない「お金に目がくらんでむすめを誘惑する男」ということになると思います。結婚を承知しないラ・モール氏のこと非難しません。なので「要するにおれは、野心とマチルド恋しさに、あのひとを殺そうとした」は、なんかすっきりしませんでした。レナール夫人を殺そうとした理由はなんか深そうです。

「マチルドの気位高い心にはいつも公衆と他人が必要だった。激しい情愛と素晴らしい行動とで世間の人をあっといわせようという、そういった欲望を心ひそかにもっていることを感じていた」

マチルドは実は虚栄心の方がつよいのかな？よく考えると、ラ・モール氏の腰抜け過ぎが、マチルドの性格をあんなふうにしちゃったんだと思いました。

牢獄でのジュリアンのマチルドに対する不実はいくら何でも気の毒です。今となっては、ジュリアンにとってマチルドは初めてあった弁護士より好感度が下になってしまいました。軽蔑される事にとっても敏感で、「金持ちや傲慢な人間へのはげしい憎悪」特に「過去の侮辱」はやっぱり拭い去れなかったのかな？ 鬼のような暗記力だし。

「蜉蝣は朝生まれ、その日の夕方死ぬ、この虫にあと5時間よけい生命を与えてやれば夜が何かすぐにわかるのだ、同じように、おれも23歳で死ぬ。あと5年いきのばしてくれぬものか、レナール夫人と暮らすために…。」

始終一貫せず、ホラーを感じるくらい不可解なジュリアンでしたが、この記述はさすがに胸が苦しくなりました。

(おわり)

『第一部第二十五章 神学校 を読んで』

上巻しか読めなかったため、今のところの私のジュリアンの印象は、「自分を偽ることができない人」だ。そして、全体として幸薄い感じのする青年だ。

あまり世間を知らず、父親への憎悪の感情も背景にあるようだが、その生育歴の影響か、持ち前の性質なのか、やることが突飛で大胆だ。お金を蔑んでいるわりには、ピラール氏からあてがわれた新旧両聖書の復習教師の昇進を喜んでいて、俗的なところもなきにしもあらずかな？ と思った。

「彼自身はずいぶん細心でやっているつもりであったが、(中略)じつはすべて軽率であった。空想家にありがちの、自分勝手な推量にまどわされた彼は、こうありたいという意図をすべて事実のように考えているのだ」新潮文庫 p293

とあるが、1か100の、その間をとるのが苦手なのか、ポリシーなのか、信念なのか、それが今後読み取れたらいいなと感じた。

「宗教に関する研究でさえ危険視されている」という一文の意味がわからなかったが、信州読書会宮澤さんの『スタンダード赤と黒解説』音声聞いて、フランス革命後に王政復古の時代があり、その頃がこの小説の時代背景であると知り、なるほどと思った。最近エーリッヒ・フロムの『自由からの逃走』を読み始めたが、第一章に、「長いあいだ現実につづいた自由を求める戦いのなかで、ある段階では抑圧に抗して戦った階級も、勝利を獲得し新しい特権を守らなければならないときがくると、自由の敵に味方した」とあった。知らない国の文化も歴史も違う人々の様子、特に歴史の揺れ戻しの時期の時代感が小説で味わえるのはありがたいことだと思う。

ジュリアンは田舎から都会に出てきたときに、初めて味わう開放感に心踊らせ、初めて入ったカフェで未経験な出来事を何とかあしらったり、神学校の複雑な階層も自分なりに分析するなどさすがだなと感じたが、「自由」への対処法はとても荒削りで、ピラール氏が「君の将来は困難だろう」と予言した通りに今後なっていく予感がする。下巻も頑張って読みたいが、できるだろうか？

読み込めておらず、この読書感想文も荒削りになってしまったことを申し訳なく思います。

(おわり)

belouga さんのブログです。過去のコラムなども掲載されています。ぜひご覧ください。

『アラフォー-belouga のつれづれ』 <http://ameblo.jp/clearmandarin/>

『 愛からの復讐 』

木挽き職人の息子のジュリアンは、才智と美貌を武器に自らの野望と立身出世を目指す。ただ、人生経験の少なかったジュリアンは思い違いをしていた。ラテン語の暗誦のように「愛」も努力でコントロールできると思っていた。

でもね、ジュリアン…初めてなのは仕方ないけど、愛は相手の感情があるし、決して自分の思い通りにはいかないよ。そして、とても危険だし…。

立身出世や権力を手に入れることを手段ではなく、目的にしてしまったジュリアン。

「愛」も同じように扱ってしまう。レナール夫人の出会いは偶然だったが、マチルドは完全に意図したものだ。何か、達成したいことがあっての野望ならまだしも、それ自体が目的になってしまうと、いずれ空中分解してしまうことを体現してしまったジュリアン。結局、愛をこじらせて、殺人未遂で死刑判決を受けてしまう。それでも、ジュリアンの愛した二人の女性は、ジュリアンに誠実だったのが救いだ。死刑執行直前まで、悪い噂をものともせず、射殺されかけても駆けつけたレナール夫人。ジュリアン亡き後の首に接吻するマチルド。愛を手段にしたせいで、愛に復讐されたジュリアンだったけど、愛はちゃんと慈しみも与えていた。

この世に誕生してから、最初に愛情を学ぶべき家族から愛されなかったことで、愛情を人一倍求めて、人一倍扱いがわからなかったジュリアン。でも、意味のない野望が果てた後、本当の愛に出会えた。たぶん、平常時には「愛」はその姿をはっきり現さない。命の期限があるからこそ、その姿がはっきりしたのだ。自ら刑に殉じることを決めて、野望や出世なんて、愛の前ではなんでもないと理解できたのは、本当に安堵した。

最後に想うのはレナール夫人であったが、ジュリアンの死の三日後に逝ってしまう。後を追うことになったのは切ないが、二人の愛は叶ったのだと思いたい。

一方、マチルドはジュリアンの忘れ形見を宿し、墓地まで付き添うことができた。ジュリアンは結果的に、二人の女性に報いたのだろう。

私も、人生の最後に想うのは誰なのか…そして、いつ「愛」から復讐されないとも限らない。

(おわり)

岡山読書会のブログです。過去のコラムなども掲載されています。ぜひご覧ください。

<http://ameblo.jp/kaoru8913/>

スカイプで個別読書を主催されています。ご興味ある方はブログからお問い合わせください。

『書いた 愛した 生きた』

マチルドは、彼女のご先祖様であるボニファス・ド・ラ・モール公が、政変で殺され、その生首を受け取りに行ったマルグリット・ド・ナヴァールの物語に憧れ続けていた。彼女の名前マチルドは、マルグリットに由来する。

家柄のいい人にも、深い悩みがあるもので、彼らは、ご先祖様の因縁を背負って苦しんでいるようなのだ。私のような庶民には、なかなか理解できないし、ジュリアンにも理解できないが、歴史的な因縁を、意志として引き受ける一群の人々がいる。それは、フランスのみならず、世界の血統主義的支配階級の宿命だ。

ロマンチズムというのは、バカという意味だと聞いたことがある。確かに、マチルドは、おバカである。自尊心と歴史的な因縁の烈しい圧力の中で、空回りを演じて、周囲をかき乱す。生まれが良すぎて苦勞したことないかわりに、心の奥底に、新たな革命にたいする恐怖と絶望が、渦巻いている。そして、若さを持って余っていて、すぐに無軌道になる。

また、退屈を殺すために、恋人をも殺しかねない。

ジュリアンの生首にキスして、ご先祖様の伝説を、自分で演じるという本懐を遂げた。マチルドは、サロメみたいな女で、とにかく恋人の生首にキスしたかったとしか思えない。

エロスとタナトスが融合した人間である。ジュリアンは、マチルドの血の宿命に思う存分翻弄されて、悪胤を残し、死んでしまった。

一方、レナール夫人は、聖心女子大学みたいなゴリゴリのジュズイット学校出身の敬虔なお嬢様なのだが、ナポレオンを崇拜するジュリアンの野蛮な情熱にやられて、身を持ち崩した。ジュリアンの栄達を邪魔することで、復讐を遂げたが、逆上したジュリアンに銃で撃たれてしまう。

ジュリアンは、結局のところ、早く死にたかったのである。ロマンチズムというのは早く死ぬことだ。「もっと早く死ぬべきなのに何故今まで生きていたのだろうか」と遺書の余白に書いた夏目漱石の『こころ』のKにもジュリアン・ソレルくらい華々しい死が用意されていたらよかったのに、と思わぬでもない。

(おわり)

『信州読書会』 メルマガ登録はこちらから http://bookclub.tokyo/?page_id=714

今後のツイキャス読書会の予定です。 http://bookclub.tokyo/?page_id=2343

課題図書はこちらでお求めください http://bookclub.tokyo/?page_id=2343